

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年10月13日更新

| | | | | | | | | | |
|---------|------|--|---------------------|-----|------|--|---|-----------|-------|
| 事務事業名 | | 路線バス翔陽・大津高校線運行事業 | | | | <input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連 | | | |
| 総合計画体系 | 政策 | 1 | 人々が安全に安心して暮らせるまちづくり | | | 所属部 | 政策部 | 課長名 | 中村 誓丞 |
| | 施策 | 4 | 公共交通の充実 | | | 所属課 | 企画課 | 担当者名 | 坂井 竹志 |
| | 基本事業 | 11 | 公共交通の利便性の向上 | | | 所属班 | 政策企画班 | (内線) | 1252 |
| 予算科目 | | 会計一般 | 款 2 | 項 1 | 目 11 | 事業連番 11466 | 法令根拠 | 成果優先度評価結果 | ④ |
| 終了、開始年度 | | <input type="checkbox"/> 22年度で終了 <input type="checkbox"/> 22年度から開始 | | | | 事業期間 | <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 21 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度) | | |

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

| | |
|--|---|
| 【事業の内容】 (開始した背景、きっかけ、今後の状況変化を含む) | 熊本電鉄のバス路線再編計画に伴い、当該路線(翔陽高校行き)が平成21年4月以降の廃止対象路線となったため、市が主体となって翔陽高校及び大津高校への路線バスを運行する事業である。(当面は翔陽高校までの運行とする。)利用者の大半が合志市の高校生であり、廃止されれば通学手段がなくなることになる。一般路線バスであるが、高校の授業(年間約220日)に合わせて運行する。※高校生以外も利用可能であるので注意。平成22年度入学から通学校区が変更され、大津高校への旧西合志地域(西合志中学校及び西合志南中学校)からの入学が増えることも想定されるため、状況に応じて大津高校までの延伸を検討していく。 |
| 【業務の流れ】 | 運行計画の策定、運行契約と実施、運行費の算定・支払いなどに係る事務手続きを行う。 |
| 【主な予算費目】 | 委託料 |
| 【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか? | ・利用者からは、通学手段として重要であり、廃止は困るとの意見があった。 ・翔陽高校からは、通学手段がなくなれば、入学者数にも影響があり、合志市の入学を希望する生徒にとっても影響は大きいとの意見があった。 ・沿線の他自治体(熊本市、菊陽町、大津町)は、利用者のほとんどが合志市民であることや、自身の交通網には影響が少ないとの判断により、事業への参画はできないとの意見である。 |

1 現状把握の部(DO、PLAN)

| | |
|---|---|
| (1) 事務事業の目的と指標 | 新規・拡充区分 |
| ① 手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動)(DO) | 23年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) |
| 新須屋駅～武蔵ヶ丘北口バス停～翔陽高校バス停までの路線バスを運行した。運行回数は1日3回(1送2迎)であった。 | 平成22年度と同様の運行体制を予定している。 |
| ① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) | (単位) 予算の主な増減の理由 |
| → ア 年間運行回数 | 回 平成22年度当初予算においては1回当たりの運行単価を2500円で算定していたが、平成22年度実績見込みにより、2010円で算定したことによる減 |
| ② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 | ② 対象指標(対象の大きさを表す指標) |
| 翔陽・大津高校へ通学する本路線バス利用者 | (単位) 市内通学者数 人 |
| ③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) | ③ 成果指標(意図の達成度を表す指標) |
| 通学手段を確保する。 | (単位) 年間利用者数 人 |
| *③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠 本事業を実施することで『意図』自体は達成されるが、利用者増は事業の必要性が高まるとともに、コスト削減が図られるため成果指標として設定した。 目標値設定の根拠については、翔陽高校へ通学する市内居住生徒数にも左右されるため平成22年度見込値を設定した。 | |

| (2) 各指標・総事業費の推移 | | 単位 | 20年度実績(決算) | 21年度実績(決算) | 22年度目標(当初予算) | 22年度実績(決算) | 23年度目標(当初予算) | 24年度予定 | 25年度見込 | |
|-----------------|------|--------------|------------|------------|--------------|------------|--------------|--------|--------|-------|
| ① 活動指標 | ア 回 | | 0 | 406 | 600 | 595 | 600 | 600 | 600 | |
| ② 対象指標 | ア 人 | | 0 | 141 | 150 | 137 | 150 | 150 | 150 | |
| ③ 成果指標 | ア 人 | | 0 | 4,513 | 5,000 | 5,231 | 5,500 | 5,500 | 5,500 | |
| 投資入費量 | 財源内訳 | 国庫支出金 | 千円 | | | | | | | |
| | | 都道府県支出金 | 千円 | | | | | | | |
| | | 地方債 | 千円 | | | | | | | |
| | | その他 | 千円 | | | | | | | |
| | | 繰入金 | 千円 | | | | | | | |
| | 人件費 | 一般財源 | 千円 | | 459 | 1,500 | 1,639 | 1,206 | 1,206 | 1,206 |
| | | (A) 事業費計 | 千円 | 0 | 459 | 1,500 | 1,639 | 1,206 | 1,206 | 1,206 |
| | | (A)のうち指定経費 | 千円 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | (A)のうち時間外、特勤 | 千円 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 正規職員従事人数 | 人 | 0 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 延べ業務時間 | 時間 | 0 | 30 | 30 | 43 | 43 | 43 | 43 | | |
| (B) 人件費計 | 千円 | 0 | 119 | 119 | 177 | 177 | 177 | 177 | | |
| トータルコスト(A)+(B) | 千円 | 0 | 578 | 1,619 | 1,816 | 1,383 | 1,383 | 1,383 | | |

総トータルコスト
全体計画
～
年度

(期間限定複数年度のみ記載)

| | | | | | |
|-------|------------------|-----|-----|-----|-----|
| 事務事業名 | 路線バス翔陽・大津高校線運行事業 | 所属部 | 政策部 | 所属課 | 企画課 |
|-------|------------------|-----|-----|-----|-----|

2 評価の部（SEE）
 ＊原則は22年度の後評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

| | | |
|---------|---|---|
| 目標達成度評価 | ①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？ | <input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】 |
| | ②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？ | <input type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 平成22年度実績において、帰宅第2便の1便あたり乗車率は1.02人であり、帰宅第1便の8.2人と比較すると非常に少ない。一部の保護者からは、運行時間帯が遅いためではないかとの意見をいただいている。運行事業者や利用者、学校側との調整がつけば、利用者は増えるものと思われる。 |
| 有効性評価 | ③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？ | <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 帰宅第2便の運行時間帯を変更すれば成果向上の余地はある。また、本市からの通学者が増えれば利用者増も見込める |
| | ④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他の方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？ | <input type="checkbox"/> 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 一般路線バスは廃止されており、他に手段がない。 |
| 効率性評価 | ⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など） | <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 帰宅第2便の廃止の有無によっては、運行経費の削減余地はある。また、利用者の運賃収入増加によって委託料は削減できる。 |
| | ⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど） | <input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 運行に係る事務協議のみであり最小限の人員である。 |
| 公平性評価 | ⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ | <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 熊本電鉄の路線バスとして運行しているため、利用者は通常運賃を負担している。 |
| 役割分担評価 | ⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？ | <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 公共交通機関の維持持続は市で担い、市民は公共交通機関を利用することで役割を担う |

3 評価結果の総括（SEE） ＊事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

平成22年度より帰宅便を1便増便したが、1便平均1人の利用しかない状況である。結果として、利用者が伸び悩んだことで次年度から予算の増額が必要となった。
 今後は、帰宅第2便の廃止やダイヤ変更を学校側と協議する必要がある。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|----|----|-----|--|--|----|----|----|----|----|--|--|---|----|--|--|--|----|--|--|--|
| <p>(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可</p> <p><input type="checkbox"/>廃止 <input type="checkbox"/>休止 <input type="checkbox"/>目的再設定 <input type="checkbox"/>事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/>事業のやり方改善（有効性改善） <input checked="" type="checkbox"/>事業のやり方改善（効率性改善） <input type="checkbox"/>事業のやり方改善（公平性改善） <input type="checkbox"/>現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）</p> <p>【有効性改善】帰宅第2便の運行時間帯を変更すれば成果向上の余地はある。 【効率性改善】帰宅第2便の廃止や利用者増による運賃収入増加により、運行経費や委託料の削減余地はあるが、平成23年度は現在の運行体制を維持しながら対応策を検討するため、コストは前年度と比較し増加することとなる。</p> | <p>(2) 改革・改善による期待成果（廃止・休止の場合は記入不要）</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> | | | コスト | | | 削減 | 維持 | 増加 | 成果 | 向上 | | | ○ | 維持 | | | | 低下 | | | |
| | | | | コスト | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 削減 | 維持 | 増加 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成果 | 向上 | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 維持 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 低下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策</p> <p>平成23年度においては、両高校における合志市からの通学者調査を行ない、次年度以降の事業計画の検討を行なう。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |